

令和4年度埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期
中間レポート（2）

小澤怜

① 授業について

・内容

前半の授業ではテーマである“More than words”のもと、「ホフステッドの6次元モデル」を参考にしながらアメリカと日本の文化の違いについて探求していきます。これは6つの視点から文化を点数化し相違性或共通性を表したもので、メンバーそれぞれ違う視点を担当しています。私はその一つ“Uncertainty Avoidance”（不確実性の回避）を担当し、ペアの Abigail と一緒に学んでいます。（不確実性の回避とは曖昧なものや未知のものへの寛容度について表したものであり、日本の文化を大きく特徴づけるものの一つと言えます。）ペアと話したことは授業内で発表し、グレッグ先生や他のメンバーからのアドバイスをもらいます。これを繰り返しながら12月に開催される発表会に向けて探求を進めていきました。

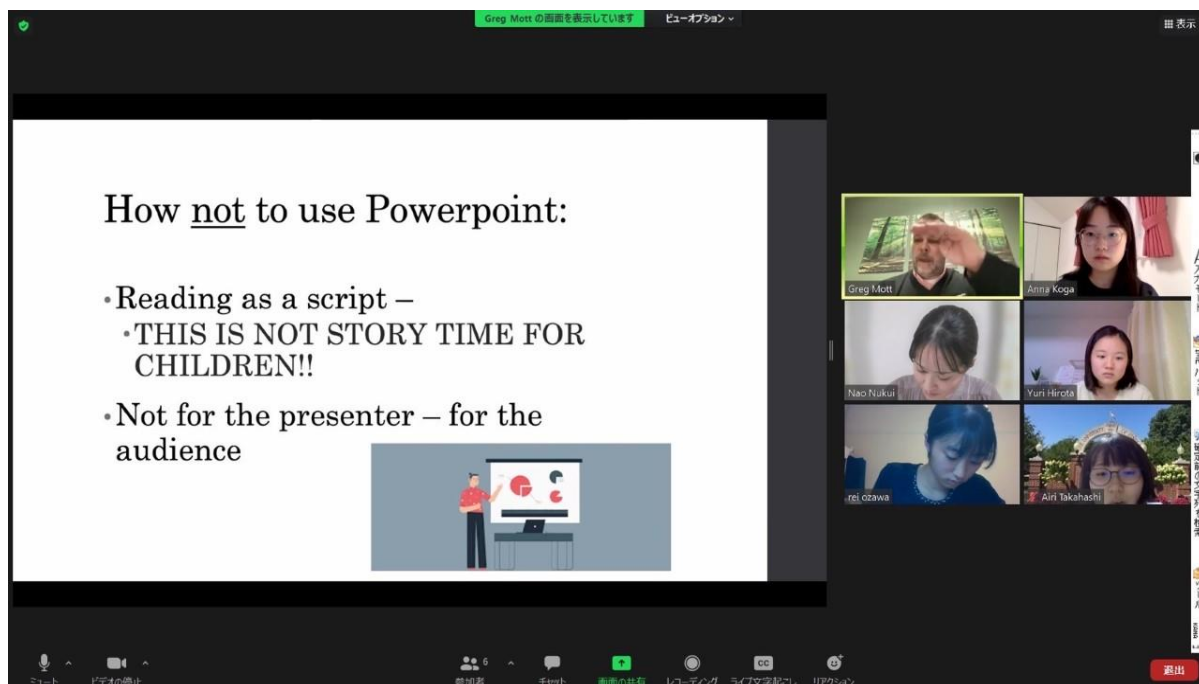
後半の授業では「より効果的なプレゼンテーション」についてグレッグ先生から講義がありました。スライドの作り方、発表の仕方、話し方など動画を交えながら授業が進んでいきます。それと同時に発表会で使用するプレゼンテーションの作成が始まり、今はペアと準備の最中です。作成途中にも授業内で先生からアドバイスをいただき、より良いものになるよう日々試行錯誤しています。

・雰囲気

授業はとてもアットホームな雰囲気でもとても楽しいです。グレッグ先生はまず授業冒頭に「2週間中の出来事」について尋ねます。数分なのですがこれに答えることが私にとって発声練習の役割を果たし、とても大切な時間です。ある時、大学の外の様子を見せて頂いたことがありました。オハイオ州で初雪が降ったのだそうです。アメリカの外の景色が新鮮でとても鮮明に覚えています。「授業だから」と背筋を正して講義に向かうことも大切ですが、少し肩の力を抜いてカジュアルに会話を楽しむという事も同様に大切なだとグレッグ先生のその心遣いから学びました。

最初のがちがちに緊張していた私ですが、少し心に余裕を持つことが出来るようになりました。中学生・社会人のメンバーなど普段話す機会のない世代の人の意見を聞くことが出来るこの機会を、とても興味深く面白く感じています。そして他のメンバーの英語力に圧倒されつつも、授業でメンバーや先生が使用していた英語表現を書き溜めるという事は当初も今も変わりません。授業が本格化する中、ノートは走り書きの嵐です。また「こんな風に言えばよかった。」「この単語を使ったらよかった。」と授業終わりに悶々とするこもしばしばです。英語の単語や表現を知っているという事とぱっとその場で使える

かという事はまた別問題なのでしょう。毎授業、痛感しています。



↑授業の様子（スライドや動画と共に説明して下さいます。）

② ペアとの交流

ペアの Abigail とは週に 1 度のミーティングを通して発表会に向け意見を出し合っています。共有しながらスライドを作り、今はプレゼンテーションのスピーキングの練習をしています。Abigail はてきぱきとした印象でとても頼りがいがあります。練習中に「こんな風に言ったら分かりやすいと思うよ。」とアドバイスをくれることもあり、とても有難いです。

当初の私は「正しく英語を話さなければ」と気負いしすぎていたように思います。だからとても緊張していたのでしょう。もちろん、正しい文章でないと思いがしっくり伝わらないので文法や単語の勉強をすることは大切です。ただ、正確な文章を組み立てようと一人で試行錯誤しているよりも「こんな時はなんて言ったらいいの？」と尋ねた方が効率的ですし、会話が弾みます。「〇〇はどう？」と提案してくれた Abigail の表情も穏やかでした。生きた英語をコミュニケーション方法と共に学ぶことが出来るという点にこのプログラムの魅力を感じています。

③ 埼玉親善大使の活動

10 月に越谷市で藍染体験をさせて頂きました。初めて体験したのですが、とても楽しかったです。当初は藍染について昔から続く伝統的で確立されたものなのだと考えていました。しかし実際挑戦してみると柄や図案を考え、創造力をもって楽しむことが出来

る文化なのだと感じました。藍につけては取り出すことを繰り返し、色を出していきます。はじめは緑色だった布が空気に触れると濃く、青色に変化していくのがとても印象的でした。「藍で染める」と言うと藍を乾燥、発酵させてから染めるのが一般的ですが、実は生の藍で染める藍染もありその方法は様々です。生の藍で染めた絹を見せて頂きましたが、同じ植物で染めたとは思えないほどやさしい水色でこちらもとても素敵でした。

また、他の訪問場所についてメンバーと相談し、埼玉親善大使としての活動を予定しています。古き良き埼玉の魅力をお伝えできるよう励んでいきたいと思えます。



↑ 藍染手ぬぐい作成中（藍に漬けた後空気に触れさせます。）



↑ 完成品